

礼拝されるべき唯一の神

ヨハネの黙示録一九章一〜二節

私は天使の足元にひれ伏して、拝もうとした。すると、天使は私に言った。「やめよ。私は、あなたや、……あなたのきょうだいたちと同じく、仕える者である。神を礼拝せよ。」(10)

キリストの再臨とともに、勝利の賛美がこだまします。ヨハネはその知らせに喜び、この喜ばしい言葉を伝えてくれた天使を礼拝しようと思いました。すると天使は慌ててヨハネを止めます。「やめよ。……神を礼拝せよ」と。このときのように、神の言葉を説く伝道者、説教者が高められ、まるで神のように崇められることがあります。しかし、教会の中には大きい者も小さい者もなく、私たちは皆、等しく神に仕える僕たちです。教会では、牧師や役員など特別な人が天使のように崇められることがあってはなりません。ただ神だけが礼拝される、それが主の教会です。東の国の博士たちは、自分たちも世にあっては礼拝されるような地位にありながら、幼子イエスのもとにひれ伏して礼拝しました。彼らはその行動もって私たちに語っています。礼拝されるべきは主イエスのみであることを。